

■沿革

本校定時制は、大正12年5月に札幌中等夜学校として開校し、昭和18年4月に北海道庁立札幌第二中学校と改称されるなどの変遷を経て、昭和25年4月に北海道札幌西高等学校定時制となり、創立100年を数える歴史と伝統ある学校です。

これまでの歩みの中で、卒業生は五千名を超え、生徒にとって魅力のある、また、地域に開かれ信頼される学校づくりの推進に努めています。

夜学の父「北山新太郎」

北山新太郎は札幌で漆器関係の卸問屋を営んでいました。苦勞してたたき上げた北山は硬骨漢であり、人情家でもありました。

北山は、学校が財団法人化申請のために金銭に困っているという話を聞き、即座に必要な金額を寄付する考えを伝えました。北山は所有する千歳の山林200ヘクタールを無条件で学校に寄付することを申し出たのです。基本金の3万円（現在の1億5千万円相当）はこうして確保することができたのでした。

また、財団法人化の許可を出さない文部省（現文部科学省）に乗り込み、学務局長に直談判に及び、文部省許可を実現しました。

こうして昭和9年（1934年）三月、財団法人・札幌夜間中学校が設立され、就業年限が5年制となりました。

北山は、その後も何かと夜間中学のことを気遣い、戦時中も時々学校に現れては授業を参観し、生徒を励まし続けました。この「夜学の父」の思いは戦後、西高定時制の「北山新太郎翁奨学会賞」に受け継がれており、これまで70名以上の生徒が表彰を受けています。



北山新太郎氏

■学校教育目標

- (1) 自ら考え、自ら学び、自ら鍛える教育
- (2) 人間相互の理解と信頼を深め、調和的成長をめざす教育
- (3) 責任を重んじ、豊かな社会性と公正な判断力を養う教育

■校訓



「自由」とは、真理と正義を追求し、人格の完成を目指すための基本的前提

「自律」とは、その自由を支える精神

「叡智」とは想像力の基盤となる高い知性

「創造」とは人類の平和と繁栄を希求し、豊かな文化をつくりあげる力

■西高実行精神



先輩たちから脈々と受け継がれてきた校訓と西高生なら誰でも知っている合い言葉です

■学校長あいさつ



第36代校長
藤村 誠

本校は、令和4年（2022年）に設立100周年を迎えた歴史と伝統のある定時制普通科の学校です。

社会で自立して生きていける生徒を育てるために、次のような特色ある教育活動を展開しています。

○少人数で分かる授業を実施して、基礎学力の定着を図ります。また、高卒認定試験等に合格して単位を取得して3年間で卒業することも可能です。

○ライフスキルトレーニングを定期的の実施してコミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を構築して充実した学校生活を支援します。

○「西定先輩と語る会」の実施をはじめ、陶芸教室、箸研ぎ体験など多彩な活動を通して社会性を高めます。

本校では、学びを深め、人間的に成長しようとする皆さんを全力でサポートしていきます。